



今やろう！4つの備え その3（室外の備え）

☆ 居住地域を知る

家のまわりの地形や地質、崖地など危険な場所、過去の災害とその対策を知ることは、災害対策に必要な不可欠です。避難所や避難経路、広い公園などのオープンスペース、集会所、コンビニなどの施設を確認しておきましょう。これらを知ることによって、早めの対応ができ、安全な場所に避難することができます。



☆ 避難先を確認する

避難指示が出たり、火災の危険が迫ったときは、近くの公園、集会所さらには小・中・高等学校などの避難所に避難します。

そこが危なくなったらもっと安全な場所

（大きな公園・広場）に移動します。自宅が被害を受け、生活困難な場合は避難所で当面生活をするようになります。

それぞれ場所を確認しておくことが大切です。

桜地区内については、緊急（一時）避難地（場所）を各自治会毎に指定されています。四日市市で指定をされている指定避難場所につきましては、地区内の小・中・高等学校が対象施設となります。

尚、避難をする際には、各自治会の指示に従って行動をしてください。



☆ 地形を知る

低地：川沿いの低地部、台地を流れる河川沿いの谷底地、

低地は軟弱な地層が多く揺れやすく、液状化する可能性があります。

台地：地盤は安定していますが、急傾斜地崩壊危険箇所もあります。

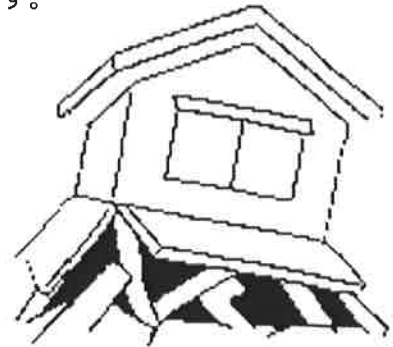
山地：山崩れや土石流、地滑りなどの被害を受ける危険があります。

☆ 総合危険度ランクを確認する

建物倒壊危険度

耐震性が低く、建築年数が古いほど建物の倒壊リスクは高く、地盤が低地や谷底低地も注意が必要。古い木造や軽量鉄骨造の建物が密集している地域は「建物倒壊危険度」が高い傾向にあります。

特に、1981年5月31日以前に建てた家屋は建築基準法施行改正以前の基準によるもので、耐震化診断をお奨めします。



裏面につづく

回 覧								

## ☆ 火災危険度

地震の揺れで発生した火災が延焼し、より広い地域に被害が広がる危険性があります。

この危険性を表したものが「火災危険度」で、出火と延焼の危険性をもとに測定しています。

木造建物が密集している地域に多く、分布します。



## ☆ ハザードマップを確認する

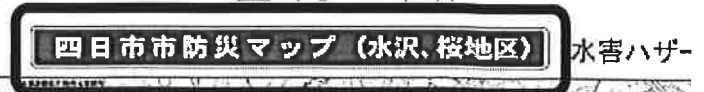
ハザードマップは、災害被害の軽減や防災対策のため、被害想定区域や避難場所、避難経路などの情報を表示した地図のことです。

自分が住んでいる場所の浸水や土砂災害、液状化の危険性などを確認しましょう。

四日市市では ●「四日市市津波避難マップ」

- 「四日市市防災マップ」
  - 「家族防災手帳（大人版・子供版）」
  - 「四日市市土砂災害ハザードマップ」（平成29年3月配布）
- が既に各家庭に配布されています。

今一度確認をしてください。



## ☆ 居住地の災害史を学ぶ

防災対策は過去の災害の教訓をもとに立てられています。

過去の洪水や地震などの災害の歴史を学ぶことで、現実感を持った備えが可能になります。

近所で昔から住んでいる人に話を聞いたり、図書館で地域の災害の歴史を調べたりしましょう。

